<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>芸術学</td><td rowspan="5">担当教員</td><td rowspan="5">今井 祐子</td></tr>
<tr><td>必修の区分</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>２単位</td></tr>
<tr><td>授業の方法</td><td>講義</td></tr>
<tr><td>開講年次</td><td>１年 第３クォーター</td></tr>
<tr><td>講義内容</td><td colspan="3">芸術学とは、美術（あるいは視覚イメージ）・音楽・演劇・文芸といった諸芸術についてのさまざまな問題や歴史を解明しようとする学問です。本講義では、主に美術史学に立脚して「東西芸術論」の問題を扱います。
前半では、大航海時代以降の欧州で見られたシノワズリーという文化現象に着目し、16 世紀から 18 世紀にかけての欧州における日本の磁器と漆器の受容・影響・変容の過程を概観します。後半では、日本開国後に欧米で見られたジャポニスムという文化現象に着目し、19 世紀後半に日本から欧米諸国へ輸出された工芸品と浮世絵、その影響下で制作された西洋美術（絵画と陶芸）を取り上げます。最終回には舞台芸術に着目し、19 世紀末の欧米で上演された日本を素材にした演劇作品を取り上げます。
授業中には、授業内容と関連づけながら西洋での日本のイメージ形成、文化接触と文化創造などに関するディスカッションも適宜行います。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="3">・日本の工芸品や浮世絵、西洋の工芸品に関する基礎知識を身につける。
・シノワズリー、ジャポネズリー、ジャポニスムの相違点、及びそれらに関連づけられる芸術作品の特性を理解する。
・文化交流に関する史実をふまえて日本の芸術文化の新たな展開を探り、その思索を地域の芸術文化および観光の活性化につなげる方法を展望する。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="3">シノワズリーの諸相
１．導入：西洋における東洋美術の受容／ロココ美術とシノワズリー
２．日本の漆器
３．日本漆器の海外輸出
４．日本の陶磁器
５．日本磁器の海外輸出
６．欧州の工芸①：ファイアンスと模造漆器
７．欧州の工芸②：軟質磁器と硬質磁器

ジャポニスムの諸相
８．ジャポネズリーとジャポニスム、そしてアール・ヌーヴォー
９．工芸品と浮世絵の輸出
10．絵画のジャポニスム
11．陶芸のジャポニスム
12．演劇のジャポニスム</td></tr>
</table>

事前･事後学習	事前学習:授業資料に目を通し､分からない用語の意味を調べる(約 90 分)。 事後学習：授業を振り返って疑問点等をまとめ、レポートに備える（約 90 分)。
テキスト	授業では教科書を使用せず、事前に各回の授業資料（PDF）を配付します。
参考文献	ジャポニスム学会編『ジャポニスム入門』、思文閣出版、2000 年。 前田正明、櫻庭美咲『ヨーロッパ宮廷陶磁の世界』角川学芸出版、2006 年。 伊藤嘉章監修『図解 日本のやきもの』東京美術、2014 年。 加藤寛監修『図解 日本の漆工』東京美術、2014 年。 ジャポニスム学会編『ジャポニスムを考える』思文閣出版、2022 年。 ※より深く理解したい人は以下の文献も参照するとよいです。その他の参考書については、授業中に適宜指示します。 日高薫『異国の表象――近世輸出漆器の創造力』ブリュッケ、2008 年。 今井祐子『陶芸のジャポニスム』名古屋大学出版会、2016 年。 神山彰編『演劇のジャポニスム』森話社、2017 年。 馬淵明子『舞台の上のジャポニスム』NHK 出版、2017 年。
成績評価の 基 準	3 分の 2 以上の出席を前提に、以下の配点割合で評価します。 ・平常点（リアクションペーパーの内容）　30% ・ピアレビュー（ディスカッションに関する学生同士の相互評価）　20% ・期末レポート　50%
履修上の注意 履修要件	・授業の後に、受講生には各自の考察、感想、質問等を記入したリアクションペーパーを提出してもらいます。このリアクションペーパーの提出をもって出席とみなします。
実践的教育	該当しない。
備考欄	50 名を超えた場合、抽選により履修者を決定します。